消化器検診 Newsletter

No. 94

発 行 所:日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会 〒112-0014 東京都文京区関口 1-19-2 第 2 弥助ビル 3 階 TEL / 03-3267-0678 FAX / 03-3235-7647 E-Mail:kantou@jsgcs.or.jp

[日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会機関紙]

日本消化器がん検診学会の新法人移行に 伴う関東甲信越地方会の対応について

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部・監事 日本消化器がん検診学会・理事(定款・諸規程担当) 三ツ沢ハイタウンクリック

増田 英明



はじめに

日本消化器がん検診学会(以下、本学会)は新公益法人制度に基づき、平成25年4月1日に一般社団法人日本消化器がん検診学会として発足することが正式に認可されました¹⁾。同時に本学会の定款に基づき、関東甲信越地方会も関東甲信越支部(以下、本支部)として新たにスタートすることになります。新法人移行を巡る支部組織並びに部会の問題点については本会のニュースレター及び部会ニュースに寄稿してきましたのでその経過及び概要の詳細についてはこれらを参照していただきたいと思いますが、今回は新法人化における支部組織の具体的対応について述べてみたいと考えます。

支部組織の基本的な考え方について

日本消化器がん検診学会定款第3条には「この法人は理事会の議決を経て必要な地に支部を置くことができる。」と規定されています²⁾。支部に関する本学会の規定はこれのみであり、支部活動については本学会の定款及び細則の中で運用される限りはその内容については細かい規定はなく、各支部の自由な裁量に任されていることとなります。すなわち基本的には現在の支部活動が大きく変化することはないと考えられます。

現在、本学会には北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中四国及び九州の7つの支部がありますが、支部毎に規約や会員構成等、其々で相違があります。このため本学会定款・諸規程検討委員

会において支部細則の格差の是正を目指して、各 支部の規約の見直しを行っておりますが、本支部で もその要件を満たすためにいくつかの改正を行って いくことを進めております。

具体的な会則変更点について

以下に本支部の会則変更について変更点を中心に概説したいと思います。新しい本支部会則については企画委員会、常任世話人及び世話人会そして総会での協議と議決を経て施行されることになりますが、平成25年4月1日以降には現在の日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会会則³⁾は廃止となりますので、以下の文章中ではこの会則を旧会則として表現いたします。

(1) 本会の名称変更及び適用(旧会則第1条・3条3)

本学会の名称が関東甲信越地方会から関東甲信越支部に変更されることは前述の如くです。基本的に支部組織であるという考えからその運営や会計は画一的に連結される必要がありますが、現状の支部活動は本学会の規定に反しない限りはその活動が大幅に制限されることはないと考えられます。

(2) 会員制度について(旧会則第5~7条3)

本学会新定款における会員制度では会員の種別を正会員、一般会員、名誉会員、功労会員、賛助施設会員としております。正会員は医師及び細則に定める条件を満たした一般会員とされ、この正会員から代議員(社員)が選出されます。一般会員は前述のもの以外の個人会員とされ、現在、支部会員である個人も本学会に帰属することになります。した

がって現状のような支部だけに所属する会員は認めらないことになります。本会の中にも支部会員の方が多くいると思いますが、これらの会員はすべて一般会員に移行することとなります。支部会員という形態がなくなるので支部は本学会会員が所属する地域において支部組織が構成されることになります。したがって現状の会員がすべて新定款に沿った移行をすると本学会会員数および支部組織構成会員数は増加することが予想されます。又、本学会会員で関東甲信越地方会にこれまで入会していなかった会員も定款上、自動的に本会所属となりますが、これはほとんどが医師会員で現在のところ、約120名の会員の増加が見込まれています。

(3) 役員名称の変更について(旧会則第9~16条3)

前述の如く、支部組織の細則格差の是正という 視点から支部役員の名称が各支部同一に変更されます。本支部では代表世話人→支部長、常任世 話人及び世話人→支部代議員となります。また幹事 という役職が新たに設置されますが、これは本支部 の従来の役職から考えると企画委員会委員とほぼ 同様の役割であるため企画委員会委員を幹事とし て横滑りさせ、企画委員会を幹事会と変更し、本支 部全体の企画・運営の役割を担当するようにしております。尚、監事については従来通りの役職であり、 名称の変更はありません。

(4) 部会名称の変更及び委員会の設置について

(旧会則約第23 ~ 26条³⁾)

会員制度の項で既述したように個人会員はすべ て本学会会員となるため、本学会だけではなく支部 組織においても内部に部会という別組織が存在す るかのような実態は本学会定款に合致しないことに なります。したがって現在の支部活動を担保するた めには部会という名称を変更する必要があり、現在 の3つの部会を研修委員会と変更します。これは7支 部同一の名称変更になり、放射線部会→放射線研 修委員会、超音波部会→超音波研修委員会、保健 衛生部会→保健衛生研修委員会となります。しかし ながらこれは名称変更のみであり、具体的な活動に ついては何も制限や変更はないとご理解下さい。 又、本支部では企画委員会と編集委員会が設置さ れていましたが、企画委員会については前述の如 く、幹事会に変更されます。編集委員会について従 来通りで変更はありません。尚、ニュースレターの発 行の条項については削除されますが、この理由は本 支部の今後の広報活動について現在、企画委員会 で協議中であるため会則では取り扱わないことにし たためです。

(5)会計・会費について(旧会則第27~31条3)

会費は本学会で一括して管理することになり、会費としては支部において徴収することはありません。 (通信費等、各支部で必要と認められたものについては徴収される可能性はあります。) 現在、本学会と

目 次

| 「私の検査のコツー注腸検査ー」腰塚 慎二 | 4 |
|---------------------------|---------------------|
| 「基本から最新技術まで」日立アロカメディカル(株) | |
| 「症例クイズ 大腸疾患編」野津 聡 | 9 |
| 第73回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 | 学術集会のご案内 第3報 12 |
| 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 | |
| 超音波部会 平成25年度事業計画(案)… | 14 |
| 平成 25 年度超音波部会セミナ | ー開催のご案内 15 |
| 第 15 回超音波研修会開催のご | 案内16 |
| 超音波スクリーニング研修講演会 | ₹2013 有明 18 |
| ザ・ベスト・イメージング・コンラ | Fスト 応募要項 ······· 19 |
| | 20 |
| 保健衛生部会 平成 25 年度事業計画 (案) … | 22 |
| 94 号掲示板 | 23 |
| 編集後記 長浜 隆司 | 24 |

支部の両方の会員であるものは両方の会費を徴収されていますが、このようなことはなくなります。又、代議員になれる資格を有する正会員とそれを有さない一般会員とは当然のことながら会費に大きな差が生じることになります。本学会の定款及び会費細則では代議員が15,000円、正会員12,000円、一般会員A(学会誌が送付されるもの)は5,000円、一般会員B(学会誌の送付がないもの)は2,000円と規定されております¹⁾。

又、会計についても学会本部と支部の会計は画 一的に連結していなければなりませんのですべての 支部会計を本学会内で財務管理することとなりま す。

(6) 会則の変更及び解散について (旧会則約第33 ~ 34条³⁾)

本支部は基本的に本学会の支部組織であるという基本的な考えからその運営や会計は画一的に連結されており、会則変更及び解散についても本学会定款と同様であり、解散の条項については削除されます。

おわりに

以上、簡単ではありますが、本学会の新法人移行 に伴う支部組織の対応並びに本支部の会則変更を 中心に概説してみました。前述のように本学会は平成25年4月1日に一般社団法人日本消化器がん検診学会として発足し、本会も関東甲信越支部として新たにスタートすることになりますが、何しろ全く初めてのことばかりであるためこの一年は運営面で予測できない不都合な事態が発生する可能性があります。会員諸氏には多々、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、ご容赦をお願い申し上げます。

又、本学会並びに支部組織のありかたの検討を 進めるに当たり、各方面から多くの意見を拝聴したい と考えておりますのでこの点につきましてもよろしくご 理解をいただきたく思います。今後も現在の学会活 動が安心して行えるような諸規定及び細則を構築し ていきたいと考えておりますのでよろしくご協力をお 願いする次第です。

参考文献

- 1) 会告: 一般社団法人の移行許可のお知らせ.日消がん 検診誌2013:51 (1).1-4.
- 2) 理事会会告:一般社団法人日本消化器がん検診学会 定款改正案.日消がん検診誌2011:49(1).176-191.
- 3) 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会:日本消化器集団検診学会 日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会会則,2010:1-5.

消化管の診断に

処方せん医薬品 **X線造影剤** 〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤・

硫酸バリウム酸 99.1%「共成」 バリトップHD ネオバルギンEHD バリブライトP ネオバルギンUHD バリブライトCL ネオバルギンHD バリコンクMX バリブライトLV

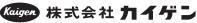
◇ゾル製剤・

バムスターS200 バリトップゾル150 バリトップ120 バリブライトゾル180

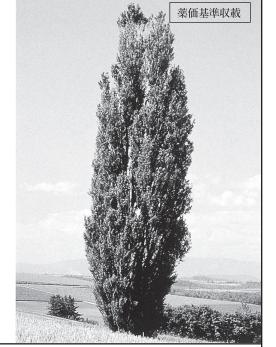
効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については 添付文書をご参照ください。

※注意一医師等の処方せんにより使用すること

発売元







私の検査のコツ

私の注腸 X 線検査のコツ(拘り)

埼玉県立がんセンター 放射線技術部 腰塚慎二

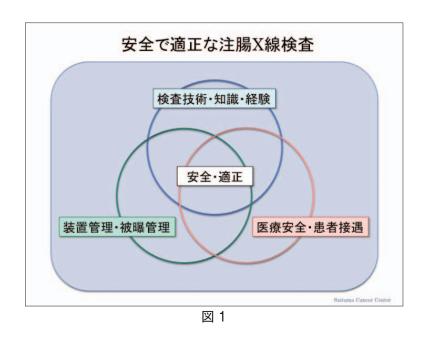
はじめに

私の注腸 X 線検査(以下、注腸検査)のコツ(拘り)は、受検者(患者)に注腸検査を受けることを理解していただき、検査終了後には検査を受けて良かったと思っていただけるような検査をおこなうことにある。

注腸検査への拘り

私の検査への拘りは、「安全で適正な検査をおこなうこと」にあり、注腸検査にかかわらず検査全般で必要な要件になると考える(図1)。

安全で適正な検査に必要な要件として、① 検査技術・知識・経験。② 装置管理・被曝管理。③ 医療安全・患者接遇などがあげられ、これらの要件がバランス良く整った時、良い検査が出来たと感じる。



検査技術・知識・経験では、それぞれの検査に必要な技術、知識であり、それを積み重ねていくことが経験 にあたいする。

装置管理・被曝管理では、技術や知識を持っていても、装置管理された状態でなければ十分な検査はおこなえない。検査前の始業点検は必須である。X線を利用した検査では、自分で使用している装置の被曝線量を知って(理解して)検査することも必要な項目の一つである。近年、受検者(患者)からの質問で検査の被曝線量についての質問がある。自分の使用している装置の1検査あたりの被曝線量がどれくらいなのか、1分間あたりの透視線量はどれくらいなのか、受検者(患者)に聞かれた時に、即答できるような準備が必要であり、安心感や信頼感はそこから生まれる。診療放射線技師の業務拡大の一つに、検査についての説明と相談がある。少なくとも、被曝線量については返答できるような準備をしておきたい。後に述べる接遇にも大きく関わってくる。近年、X線TV装置のデジタル化が進み、パルス透視と撮影後にリアルタイムに確認できるリファレンス画像が一般化し

つつある。これらを上手く使って検査における被曝線量の低減化 (最適化) も我々に課せられた課題の一つであり、装置・被曝管理の上では重要と考える。

医療安全・患者接遇では、我々診療放射線技師に最も欠けている項目であるように考える。医療安全では、前処置による副作用、鎮痙剤による副作用、潤滑剤による副作用、造影剤による副作用、検査中における偶発症、検査途中における中止の判断、感染症など、これらを正確に理解した上で、緊急マニュアルの作成をすることが大切である。接遇については、受検者(患者)心理の理解、検査の説明とコミュニケーション(検査前、検査中、検査終了後)などがあげられる。ここで最も重要となることは、検査者(術者)の態度によって、受検者(患者)の精神状態が決まるといっても過言ではない。受検者(患者)は、不安や痛み、羞恥心を持って検査に臨む。その心理状態は様々であり、それぞれに答えられるような準備をする必要がある。一度自身が検査(注腸検査)を受けてみることで、何を不安に思うのか、受検者(患者)の心理を理解する最も良い経験になると私は考える(図2)。講演や講習会で参加技師に検査の経験を聞いても、数人の挙手や、一人もいない時は残念でしかたない。

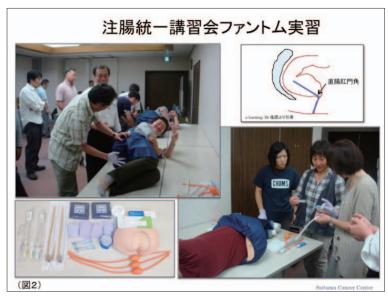


図 2

私たちのおこなっている検査は、人と人(受検者と検査者)とのコミュニケーションでなりたっている。すばらしい技術を持った検査者でも、受検者(患者)が思うように動いてくれなければ、検査者が考えている検査はおこなえない。検査に対する不安や不信感は、その検査への逃避にもつながる。近い将来、受検者はカタログでショッピングするかのように、受検者本人が検査を選択する時代が来るかもしれない。次回の検査につなげるためにも、受検者(患者)との接遇(コミュニケーション)を考えてほしい。

最後に

検査において、どんな技術や知識を持っていても、受検者(患者)との接遇(コミュニケーション)が、うまくとれないと十分な検査はおこなえないと考える。検査を安全で適正におこなうためには、これらすべてが必須である。「安全で適正な検査」をおこなうためにも、日々私はこの「拘り」をもって検査に臨んでいる。これが、受検者(患者)が苦痛なく検査室を後にできる「コツ」となる。

HI VISION Ascendus に搭載した高画質化技術と先進的アプリケーション

日立アロカメディカル株式会社 マーケティング本部 プロダクト企画部 香西和久

デジタル超音波診断装置『HI VISION Ascendus』は、世界最高の画質をめざして日立製作所の各研究所をはじめとした日立グループの総力を結集して開発しました。『HI VISION Ascendus』は超音波の送受信回路を一新し、プレミアム機としての高画質化を実現しています。

また画像処理部では、ご好評いただいているデジタル信号処理回路 Ultra BE (Ultrasound Broadband Engine) をさらに進化させた Ultra BE II (Ultrasound Broadband Engine 2nd Generation) を搭載し、高度な画像処理、新しいアプリケーション機能を搭載しています。

本稿では『HI VISION Ascendus』に搭載した高画質化技術とアプリケーションについてご紹介します。



デジタル超音波診断装置「HI VISION Ascendus」

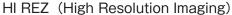
■高画質化技術

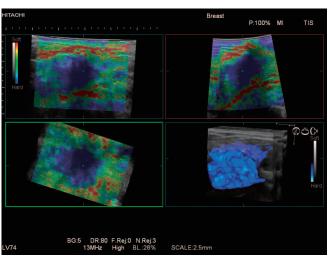
新開発のUltra BE IIによる信号処理回路の高速化により、より進化した HI REZ (High Resolution Imaging) を搭載しました。

HI REZ は超高速アルゴリズムを用いて、リアルタイムに数万回の空間画像処理を実施する高精細画像適応型フィルタ技術です。

構造物の抽出・組織の強調を行い、超音波画像に特有なアーチファクトであるスペックルノイズを低減させることで、コントラスト分解能を向上させ、より明瞭に組織構造を描出します。また、全素子送受信技術や Low Noise Amplifier、Adaptive Enhance などの技術と合わせることで、クリアで美しい画像を追求しています。







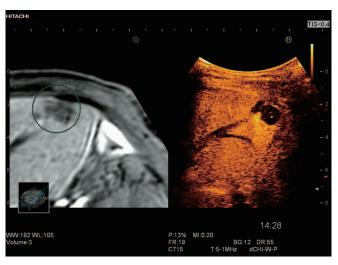
4D Elasto

4D Elasto

Real-time Tissue Elastography は組織の硬さの違いを画像化する技術で、2003 年に日立が世界で初めて製品化しました。現在では乳がん検診をはじめとした日常検査でも使用されるようになってきています。『HI VISION Ascendus』には世界で初めてリアルタイムで Elastography を 3D 表示する機能を搭載しました。この機能は、リニア探触子を機械的に揺動させることでボリュームデータをリアルタイムに取得し、組織の硬さ情報を画像化します。この機能の実現には高速の信号処理能力が要求され、Ultra BE IIにより初めて実現しました。

Contrast Harmonic Imaging

通常の断層像と造影画像を同時表示するオルタネートモードに加え、高音圧送信を行って超音波造影剤を破壊(Flash)することで、その再環流を観察するためのフラッシュモードを搭載しました。さらに、各画素の最大輝度値をフレームごとに重畳表示することで造影剤の走行の視認性を改善する MTI(Microbubble Trace Imaging)モードを備えています。 MTI モードでは観察中、体動補正機能によってリアルタイムに体動アーチファクトを軽減することが可能で、体動アーチファクトの重畳を防ぎ、高画質化を図っています。また、組織成分からの反射エコーを抑制し、造影剤からの反射エコーを高感度にて選択的にカラーマッピング表示する、Color Wideband Pulse Inversion機能も搭載しました。また、超音波画像と同一断面の CT/MR/US のスライス断面をリアルタイムに並列表示する機能 "Real-time Virtual Sonography(RVS)と併用することで、Contrast Harmonic Imaging の可能性がさらに広がります。

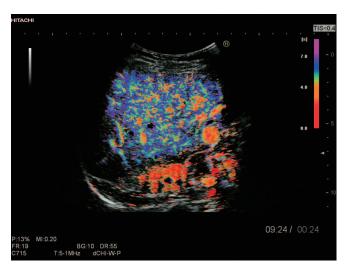


Contrast Harmonic Imaging + RVS (ご提供:東京医科大学 消化器内科 森安史典先生)

■ Inflow Time Mapping

Inflow Time Mapping (ITM) は、輝度解析機能の一つで、Contrast Harmonic Imaging による造影 剤の流入時間差に着目して、各画素の時間的な輝度変化を色付け表示します。

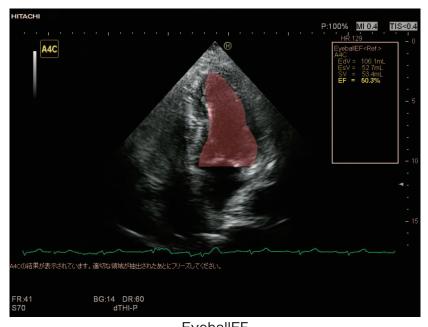
解析画像は様々なカスタマイズが可能で、色付けが変化していく様子を連続的に確認したい場合には、グラデーション表示も可能となっています。また解析画像上の不要なノイズ成分を除去する機能も搭載しています。



Inflow Time Mapping (ご提供:東京医科大学 消化器内科 森安史典先生)

EyeballEF

循環器エコーにおいて、心尖部四腔断層像と二腔断層像との識別およびその左室内膜の認識をリアルタイム画像解析することで、EF(Ejection Fraction)計測を行うことが可能な技術です。フレーム選択やトレース操作が半自動化されているため、検査時間を短縮することができます。計測対象の波形の位置や結果は、任意のフレームに対して計測結果の修正が可能となっており、ワークフローの向上が期待できます。

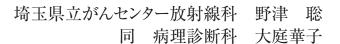


EyeballEF (ご提供: 徳島大学病院 循環器内科/超音波センター 山田博胤先生)

*1:リアルタイムに Elastography の 3D 像を表示可能にしたことが、世界で初めてです。(当社調べ)

HI VISION Ascendus、Ascendus、UltraBE、Ultra BE/Ultrasound Broadband Engine、HI REZ、Real-time Tissue Elastography、Real-time Virtual Sonography、は株式会社日立メディコの登録商標です。

症例クイズ





症例提示

86 歳 女性

主 訴:便潜血陽性

既往歴:高血圧、脳梗塞、緑内障、白内障

家族歴: 弟2人に大腸癌

現病歴: 便に血が付くことがある

上記状態にて大腸内視鏡、注腸検査が行われ、内視鏡検査では病変部から生検が行われた。

この症例の診断名を下記から選択せよ

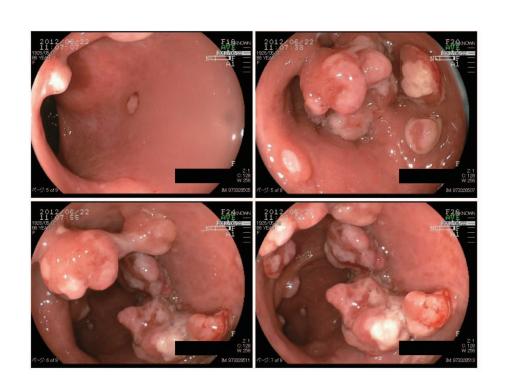
大腸癌

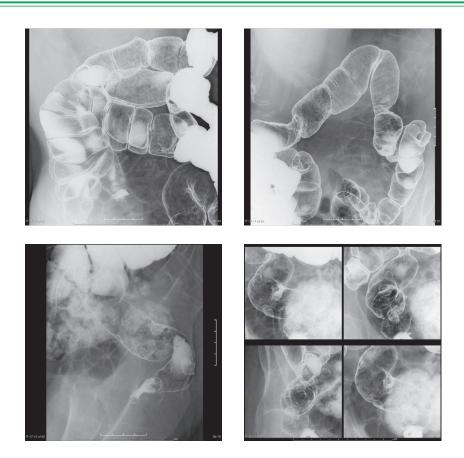
家族性大腸ポリポーシス

偽膜性腸炎

非特異的な多発性炎症性ポリープ

Cap polyposis





解説

症例は当初内視鏡所見でS状結腸に集簇する亜有茎性ポリープとのコメントで生検組織診断が依頼され炎症性ポリープと診断された。しかし、画像カンファレンスにて注腸所見(ブスコパン使用なく蠕動の多い像。また骨盤内には大きな石灰化筋腫あり)および内視鏡所見の特徴は直腸からS状結腸に限局した白苔を伴う扁平~亜有茎性の多発性ポリープで一部は輪状配列を示すことから cap polyposis が疑われた。組織所見を再検討したところ(組織図左上が生検組織)、表層には線維素性化膿性滲出物の付着した炎症性肉芽組織を認め(右上)、腺管はやや過形成性で軽度拡張している(左下)。粘膜固有層が広くなっており、好中球や形質細胞、好酸球などの炎症細胞と腫大した内皮細胞を有する小血管の増加を認める(右下)。以上の所見より、組織学的にも cap polyposis として矛盾しない所見とされ、最終診断となった。

cap polyposis は 1985 年に Williams らが inflammatory 'cap' polyps として 15 例を報告し、1993 年に Campbell らによって cap polyposis と呼称された比較的新しい疾患概念で本邦医学雑誌で報告されている特徴は下記のごとくである。

原因は不明で、成因として①粘膜脱や大腸運動機能異常に伴う慢性的機械刺激、②感染症、③免疫異常などのほか、最近では Helicobacter Pylori (HP) 持続感染による免疫反応説が考えられている。

病変は直腸からS状結腸を中心に多発。時に全大腸に及ぶ。好発年齢はなく女性に多い。臨床症状は下痢、 粘血便などが多いが無症状で偶然の発見例もある。問診上、排便時にいきむ習慣を有する症例が多い。

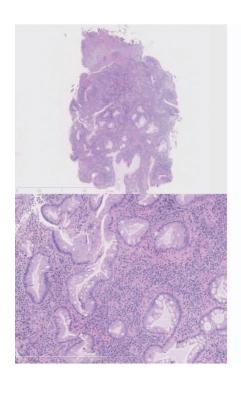
血液検査所見では病変部からの蛋白漏出による高度から中等度の低タンパク血症を認めることがあるが貧血や炎症所見はあっても軽度である。

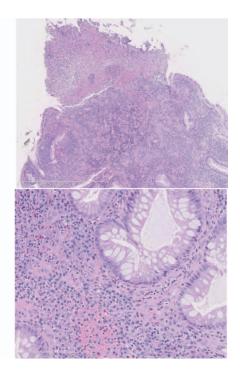
画像的な特徴は直腸から S 状結腸にかけての多発性ポリープで個々の病変は大きさ 0.5 - 2cm が多い。形状は粗大結節状、平盤状、たこいぼ状または芋虫状の隆起で隆起の立ち上がりは比較的急峻で周囲粘膜との境界は明瞭で一部融合傾向を示すこともある。表面は発赤調、易出血性で粘液や白苔付着、びらん形成を伴う。

腸管短軸方向に輪状に形成される傾向がある。介在する粘膜はほぼ正常であるが、隆起性病変の周囲にはしばしば小白斑を認める。発症初期および緩解期には多発する地図状の扁平な発赤粘膜を呈する。なお、内視鏡検査前処置として Braun 変法を用いた場合はポリープ表面に白苔が残存するが腸管洗浄法で前処置した場合は白苔が剥離してしまうとの報告もある。

組織学的には隆起は延長・屈曲・拡張した異型のない過形成の腺管から構成される。杯細胞は粘膜深層では比較的よく保たれるが表層では減少している。粘膜固有層には毛細血管の増生や血管拡張を認める。隆起表層は通常潰瘍化し、線維素性化膿性滲出物と炎症性肉芽組織からなる"cap"で被われている。炎症細胞浸潤は隆起表層から中層にかけて強く深層では弱い。炎症細胞は炎症の強い部位では好中球、リンパ球、形質細胞を主体とし、弱い部位ではリンパ球、形質細胞からなる。直腸粘膜脱に特徴的な線維筋症(fibromuscular obliteration)は隆起深層を中心に軽度からごく軽度に認める程度である。炎症性ポリープや炎症を伴った過形成ポリープとの違いは血管増生を伴うことである。

治療法は確立しておらずメトロニダゾールの有効例、いきみの習慣をなくすように指導して改善した症例や自然治癒した症例がある。外科的治療や内視鏡的治療は再発例が多く、ステロイド注腸も一時的に有効な症例があるが中止すると再燃する症例が多い。最近は HP 除菌療法有効例の報告が多く、また、インフリキシマブの有効例も散見される。





最後に

cap polyposis は臨床所見、画像所見および組織像に特徴を有するが組織学的所見の一部は炎症性ポリープや直腸粘膜脱と共通している。また、内視鏡検査時の生検では粘膜表層のみの組織しか採取できず組織学的な特徴像が把握しにくい場合があり、かつ通常のポリープと比べて頻度が少ないために、病理医の中にもcap polyposis の病名を知らなかったり経験がない場合もあり誤診の原因となる。 cap polyposis に限らず臨床家が診断に迷う疾患や特殊な疾患を疑って生検組織診断を病理医に依頼する場合は、臨床家が疑った病名を明記するか臨床像を詳細に記載することを心がけるべきと考える。

第73回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会開催のご案内 第3報

期 日: 平成 25 年 8 月 31 日 (土)

会場:横浜ロイヤルパークホテル

〒200-0012 横浜市西区みなとみらい 2-2-1-3

TEL 045 - 221 - 1111

会 長:三ツ沢ハイタウンクリニック 増田 英明

参加費: 3.000 円

~ テーマ「消化器がん検診の新たなスタートに向けて」~

第73回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を上記日程で開催いたします。日本消化器がん検診学会の一般社団法人化に伴い、今回から関東甲信越支部地方会と変更されることになります。本会が長らく培ってきた伝統を継承しつつ、さらに新たなスタートにふさわしい学術集会とすべくテーマを「消化器がん検診の新たなスタートに向けて」とさせていただきました。

今回は胃がん検診、大腸がん検診、超音波検診といったカテゴリーごとに医師・技師・保健師が広く参加できるようなプログラム構成を基本的なコンセプトとし、主題演題として「胃がん X-p 検診を安全におこなうために」、「胃がん内視鏡検診の立ち上げと発展に関する課題」、「大腸がん検診の中で行う TCS において解決すべき問題点」、「超音波検診の精検をめぐって」を企画しました。さらに教育講演、一般演題を加えたプログラム構成となっています。又、医師研修会の開催を企画し、その一環として日本消化器がん検診学会理事で和歌山県立医科大学第2内科一瀬雅夫教授に胃がん検診の近未来についての特別講演をお願いしています。

【主題演題】 (指定)

【一般演題】 (公募)

一般演題の申し込みは演題名、演者、所属、連絡先及び抄録(800字以内)を下記事務局宛てに E-mail にてお送り下さい。(締切; 平成25年5月31日まで)

本会会員からの多数の演題の応募をお待ちしています。

事務局

〒112-0014 東京都文京区関口 1-19-2 第 2 弥助ビル 3F 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部事務局 担当: 菊池

Tel: 03-3267-0678 Fax: 03-3235-7647

E-mail: kantou@jsgcs.or.jp

医師研修会のご案内

第73回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会において医師研修会を開催します。参加ご希望の 医師会員は、下記事務局までメールにてお申し込みください。参加者には研修修了書を発行いたします。

研修日時:第1会場及び第3会場14時~17時

(特別講演及び主題演題「胃がん内視鏡検診の立ち上げと発展に関する課題」と「大腸がん検診の中で行う TCS において解決すべき問題点」を研修会に指定します)

修了書発行費:2.000 円

申 込 方 法:氏名、施設名、ご連絡先電話番号、メールアドレスを記載のうえ、下記事務局アドレスへお申 し込みください。

受講申込締切:7月31日

事務局 〒112-0014 東京都文京区関口 1-19-2 第 2 弥助ビル 3F

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部事務局 担当: 菊池

Tel: 03-3267-0678 Fax: 03-3235-7647

E-mail: kantou@jsgcs.or.jp

「日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年記念誌」 寄稿募集

来年度(平成25年4月)から一般社団法人移行に伴い、名称が「関東甲信越支部」へと変更され「関東甲信越地方会」の名称としての活動は今年度が最後となっております。

そこで「関東甲信越地方会」としての40年の歩みを残すべく、記念誌を発行する予定としております。 そこで是非皆様から関東甲信越地方会での活動の思い出等、地方会に向けて寄稿を募集いたします。 詳細についてのご質問は、関東甲信越地方会事務局までメールにてご連絡ください。

問い合せ先:日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 事務局

E-mail: kantou@jsgcs.or.jp

14

平成25年度事業計画(案)超音波部会

(1) 平成 25 年度超音波部会セミナー

会 期: 平成 25 年 4 月 20 日(土)午後 1 時~ 4 時 30 分(受付開始 12 時 30 分)

会 場: 東医健保会館 大ホール 東京都新宿区南元町 4 番地

教育講演1「カテゴリー分類とは?」

教育講演2「知って得する超音波 泌尿器」

教育講演3「知って得する超音波 胆嚢」

(2) 第15回超音波部会研修会(日光セミナー)

会 期: 平成 25 年 6 月 22 日 (土) · 23 (日) 一泊二日

会 場:日光東照宮「晃陽苑」 栃木県日光市瀬尾 1640 - 14

募集人数:40 名程度

テーマ:症例から学ぶ

病理・基礎・肝臓・胆道・膵臓・画像・乳腺

(3) 第2回千葉セミナー

会 期:平成25年7月6日(土)

会 場:千葉商工会議所 (千葉県千葉市中央区 2-5-1)

(4) 第9回長野セミナー

会期:平成25年8月予定

会 場: 佐久大学 予定

(5) 第73 回関東甲信越地方会学術集会(第15 回超音波部会学術集会)

会 期:平成25年8月31日(土)

会場:横浜ロイヤルパークホテル

① 般演題 ②教育講演 ③ザ・ベストイメージング・コンテスト

4)パネルディスカッション

(6) 超音波スクリーニング研修講演会 2013 有明

会 期: 平成 25 年 12 月 14 日 (土)

会 場: TOC 有明コンベンションホール

(7) 初心者のための腹部超音波実技講習会

会 期:平成26年2月開催予定

会 場:公立学校共済組合 関東中央病院 東京都世田谷区上用賀 6-25-1

(8) 第9回新潟セミナー

会期:平成26年3月予定

会場:朱鷺メッセ

(9) 第2回茨城セミナー

会 期:平成26年3月9日(日)

会 場:つくば国際会議場

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 平成 25 年度超音波部会セミナーのご案内

会 期:平成25年4月20日(土)

午後1時~4時30分(受付開始12時30分)

会 場: 東医健保会館 大ホール 東京都新宿区南元町 4 番地

会 費:3,000 円 *事前登録不要

16:30

この研修会は、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」資格更新指定の対象になっており、出席5単位が付与されます。

プログラム

開会の辞 $13:00 \sim 13:05$ $13:05 \sim 13:30$ 教育講演1「カテゴリー分類とは? 講師:駿河台日本大学病院 小川 眞広先生 教育講演2「知って得する超音波 泌尿器」 $13:30 \sim 14:20$ 講師: PL 東京健康管理センター 桑島 章先生 $14:20 \sim 15:10$ 教育講演3「知って得する超音波 胆嚢」 講師:飯田市立病院 岡庭 信司先生 $15:10 \sim 15:20$ 休憩 $15:20 \sim 15:30$ 第15回超音波部会総会 $15:30 \sim 16:30$ 症例検討会 座長:亀田総合病院 若杉 聡先生

問合せ先

閉会の辞

関東中央病院画像診断科

E-mail: kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

担当:鳥海

ホームページ URL: http://www.mskanus.org/

第15回 超音波研修会(日光セミナー)のご案内

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 超音波研修会 代表世話人 依田 芳起 研修委員長 中島 美智子

下記の通り、第15回超音波研修会(日光セミナー)を開催いたします。

当研修会は超音波検診担当者の教育、および指導技師の育成を目的に、超音波検査の原理、超音波画像の意義、超音波検査の対象となる疾患の病理・病態・超音波所見などを研修する一泊二日のセミナーです。 受講資格に制限を設けませんが内容は中・上級者向けになります。詳細プログラムは出来次第、超音波部会ホームページに掲載いたしますので会員の皆様のご参加をお待ちいたします。

この研修会は、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」資格更新指定の対象になっており、出席5単位が付与されます。

記

期 日: 平成 25 年 6 月 22 日(土) · 23(日) 一泊二日

会 場: 日光東照宮「晃陽苑」 栃木県日光市瀬尾 1640-14 *3~4人の相部屋になります、(グループ申込み制度あり)

講義内容:胆道・肝臓・膵臓・乳腺・病理・基礎・画像ファイリングの7つの講演を予定しています。

参加費:2万円程度予定

募 集 数:40 名 (応募多数の場合は抽選になります) 申し込み手続きは平成 25 年 4 月 1 日より開始します。

主 催:日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

テーマ:『ここまでわかる超音波検査』

講師

教育講演 1. 基礎 椎名 毅 先生 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

教育講演 2. 画像 高田 悦雄 先生 獨協医科大学超音波センター

教育講演 3. 病理 五十嵐 誠治 先生 栃木県立がんセンター病理診断部

教育講演 4. 胆嚢 関口 隆三 先生 栃木県立がんセンター画像診断科

教育講演 5. 肝臓 小川 眞広 先生 駿河台日本大学病院

教育講演 6. 膵臓 岡庭 信司 先生 飯田市立病院

教育講演 7. 乳腺 何森 亜由美 先生 高松平和病院 外科

- * 超音波部会ホームページ http://www.mskanus.org/
- * 申し込み先 E-mail: kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com 担当: 鳥海 修 〒158-8531 東京都世田谷区上用賀 6-25-1

関東中央病院 画像診断センター 鳥海 修 宛

第15回超音波研修会(日光セミナー)申込書

平成25年 月 日

| | | | 1 /92 20 | 1 /4 | н | | | | |
|-----------------------|------|------|----------|--------|-----|------|---------|---|---|
| ふりがな | | | | | | | | | |
| 受講者氏名 | | | | | | | 男· | 5 | ζ |
| | 会員・ | 非会員 | (○を付 | けて下さい) | | | | | |
| 生年月日 | 昭和 | 年 | 月 | H | 歳 | | | | |
| 資料送付先 | 自宅・ | 勤務先 | (○を付 | けて下さい) | | | | | |
| 自宅住所 | ₸ | _ | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 自宅電話 | | | | | | | | | |
| 施設名 | | | | | | | | | |
| 勤務先住所 | ₹ | _ | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 勤務先電話 | | | | | | | | | |
| 職種 | 臨床検査 | 技師 · | 診療放射 | 村線技師 ・ | 看護師 | ・ 医師 | その他 | | |
| 超音波検査士 | 有・ | 無 | | | | | | | |
| E-mail | | | | | | | | | |
| ※グループでの申う で申込みしてくた | | | | | | | | | |

| 代表者 | | | |
|-----|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

『超音波スクリーニング研修講演会 2013 有明』のご案内

下記の通り、『超音波スクリーニング研修講演会 2013 有明』を開催致します。

当研修講演会は、超音波スクリーニングに直接携わる技師の教育・育成を目的に、日本消化器がん検診学会、日本総合健診医学会の共催で行い、超音波スクリーニングの精度向上に必要な基礎および臨床的知識を広く網羅したものです。対象臓器は肝臓、胆道、膵臓、消化管、腎臓などの腹部臓器を中心に、乳腺、甲状腺を含めた分野で企画し、講師陣には現在、超音波医学の第一線で活躍されているトップレベルの指導医を招聘しております。皆様の参加をお待ちしております。

■会 期:平成25年12月14日(土)

午前9時25分~午後5時00分

*開場・受付開始:8時30分から

■会 場: TOC 有明コンベンションホール (WEST GOLD20)

東京都江東区有明3-5-7

*埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩3分

*ゆりかもめ『有明』駅より徒歩4分

■参加費:5,000円(資料代含む) 事前登録不要

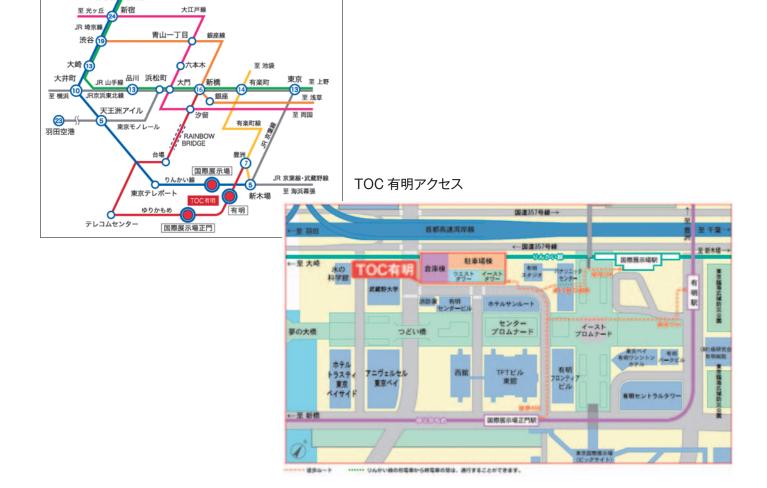
■主 催:特定非営利活動法人 超音波スクリーニングネットワーク

理事長:竹原 靖明

■共 催:日本消化器がん検診学会/日本総合健診医学会

■問合せ: 関東中央病院 画像診断センター (担当:山田)

E-mail kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com



ザ・ベスト・イメージング・コンテスト作品募集

第73回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会において「ザ・ベスト・イメージング・コンテスト」 を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

特に、出張検診で活躍されている方々の汎用機で撮影された症例のご応募お待ちしております。

第73回関東甲信越地方会学術集会

会 期:平成25年8月31日(土)

会場:横浜ロイヤルパークホテル

会 長:増田 英明 (三ツ沢ハイタウンクリニック)

応募要項

【超音波画像】

Bモード(カラードプラ・パワードプラ可)1枚(ただし2分割使用可)

超音波画像に文字、記号等は入れないで下さい。

【領域】

上腹部(肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他)

【応募方法】

E-mail で件名を『ベストイメージング(応募者名)』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル (power point) で応募して下さい。

《スライド 1 枚目》

氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者(検診者)の年代・性別、診断名、コメント(術者の一言) 《スライド2枚目》

超音波画像

【応募先】

新横浜ソーワクリニック 担当:中村 稔 Mail:kensa.vokohama@sowa.or.jp

【締め切り】

平成 25 年 8 月 15 日 (必着)

*応募は一人1点のみとさせていただきます。

平成25年度事業計画(案) 放射線部会

(1) 第 23 回胃 X 線レベルアップセミナー

開催日時:2013年5月11日(土) 14:00~18:00

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(2) 第6回胃X線画像読影勉強会

開催日時:2013年5月24日(金) 18:30~20:30

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(3) 第24回胃 X線レベルアップセミナー

開催日時:2013年6月15日(土) 14:00~18:00

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(4) 第7回胃 X 線画像読影勉強会

開催日時:2013年7月26日(金) 18:30~20:30

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(5) 第 25 回胃 X 線レベルアップセミナー

開催日時:2013年8月24日(土) 14:00~18:00

開催場所:群馬県

(6) 第8回胃X線画像読影勉強会

開催日時:2013年9月27日(金) 18:30~20:30

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(7) 第 26 回胃 X 線レベルアップセミナー

開催日時:2013年10月26日(土) 14:00~18:00

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(8) 第9回胃X線画像読影勉強会

開催日時:2013年11月22日(金) 18:30~20:30

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1 ステーションプラザタワー 505 号

(9) 第 27 回胃 X 線レベルアップセミナー

開催日時:2013年12月7日(土) 14:00~18:00

開催場所:千葉県

(10) 第 36 回消化管造影技術研修会

開催日時:2014年1月31日(金)~2月2日(土)(2泊3日)

開催場所:日本青年館ホテル

(所在地) 東京都新宿区霞ヶ丘7-1

(11) 第 28 回胃 X 線レベルアップセミナー

開催日時:2014年2月22日(土) 14:00~18:00

開催場所:東京都診療放射線技師会研修室

(所在地) 東京都荒川区西日暮里二丁目 22 番 1

ステーションプラザタワー 505 号

他年間活動

- 4月 世話人会、記念誌「放射線部会の歩み」作成委員会設置 セミナー・読影委員会
- 5月 世話人会、セミナー・読影委員会、平成24年度監査
- 6月 セミナー・読影委員会、研修委員会
- 7月 世話人会、研修委員会、セミナー・読影委員会
- 8月 セミナー・読影委員会、研修委員会
- 9月 世話人会、セミナー・読影委員会、研修委員会、地方会放射線フォーラム
- 10月 セミナー・読影委員会、研修委員会
- 11月 世話人会、セミナー・読影委員会、研修委員会
- 12月 世話人会、セミナー・読影委員会、研修委員会

平成 26 年

- 1月 世話人会、セミナー・読影委員会、研修委員会
- 2月 セミナー・読影委員会
- 3月 世話人会、セミナー・読影委員会

平成 25 年度事業計画(案) 保健衛生部会

(1) 上手ながん検診の受け方 精度と安全管理 講演会

開催日時:2013年11月未定 18:30~20:30

開催場所:東京都(所在地)未定

(2) 胃エックス線安全基準に関する事業 (平成 24 年度より継続事業)

冊子活用後の実態調査、冊子の追加印刷

実施期間: 2013 年 4 月 1 日~ 2014 年 3 月 31 日

《94号掲示板》

第52回日本消化器がん検診学会総会のご案内

会 長:渋谷 大助(公益財団法人宮城県対がん協会がん検診センター)

会期:2013年6月7日(金)~8日(土)

会 場:仙台国際センター

〒 980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地 TEL: 022-265-2211

総会事務局:公益財団法人 宮城県対がん協会がん検診センター 医局

実務担当:島田 剛延、永窪 紀代美

〒 980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30 TEL: 022-263-1581 FAX: 022-262-3775

E-mail: ikyoku@miyagi-taigan.or. jp

プログラム・日程などの詳細は学会ホームページをご覧ください

URL: http://www2.convention.co.jp/jsgcs52/

第51回日本消化器がん検診学会大会のご案内(JDDW 2013)

第51回大会は下記のとおり開催されます。本学会は前半の9日~10日となります。

会 期:2013年10月9日(水)~12日(土)

場 所:グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール・グランドプリンスホテル高輪・

品川プリンスホテル

第55回日本消化器病学会大会 会長 川崎 誠治 (順天堂大・肝胆膵外科)

第86回日本消化器内視鏡学会総会 会長 藤田 直孝

(仙台市医療センター仙台オープン病院・消化器内科)

第17回日本肝臓学会大会 会長 青栁 豊 (新潟大大学院・消化器内科学)

第11回日本消化器外科学会大会 会長 具 英成(神戸大大学院·肝胆膵外科学)

第51回日本消化器がん検診学会大会 会長 斎藤 博

(国立がん研究センターがん予防・検診研究センター)

第44回日本消化吸収学会総会 会長 舩越 顕博(福岡山王病院・膵臓内科)

JDDW2013 に関する 問い合わせ先 | JDDW 事務局:

〒 104-0061 東京都中央区銀座 8-9-13 K-18 ビル 9F TEL: 03-3573-1254 FAX: 03-3573-2198 E-mail: endai2013@jddw.jp(演題に関する内容) E-mail: tokyo2013@jddw.jp(学会に関する内容)

編集後記

本ニュースレターも本号をもって会員の皆様へ の郵送を廃止しホームページ上での公開となりま す。平成25年4月1日より新公益法人制度に 基づき本学会も一般社団法人日本消化器がん 検診学会として新たなスタートを切ることとなりまし た。同時に関東甲信越地方会も関東甲信越支 部となります。具体的な対応については巻頭言 で増田英明先生から述べられていますが、編集 委員会としては、会計が連結会計となり支部会計 を本学会内で財務管理することとなり支部予算 が縮小されることが予想されるために関東甲信 越支部 HP の開設と今まで会員皆様に郵送して いたニュースレターの郵送を中止しHP 上での web 公開化の準備を一昨年から進めてまいりま

した。ようやくHPは本年1月9日に開設の運び となり、次号のニュースレターからはこの HP 上で の公開になります。現在 (URL http://jsgcskanto.jp/index.html) にて公開しておりますの で是非皆様ご覧ください。

このニュースレターも現在企画委員会で支部 の広報活動について協議中であり、発行につい ては条項からは削除されますが、今後もニュース レターのみならず会員の皆様に有益なさまざまな 情報をHP上で発信していこうと思っております。 会員皆様には郵送停止にてご不便をおかけしま すが、諸般の事情をご理解の上今後とも一層の ご協力をお願いいたします。

■編集委員会■

さと温もりをもって届けたい

編集委員長 長浜 隆司

編集委員 岡田 義和 山本 美穂 神宮字広明

> 小田 丈二 山口 和也

(非売品)

食道から大腸まで 適確診断のために……



処方せん医薬品 注意 医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

上部消化管X線造影剤

バリテスター A240枚

バリトゲン。SHD

注腸用X線造影剤

エネマスター単版

X線CT用経口消化管造影剤 バリトゲン。CT

消化管X線造影剤

バリト・ケン ソル145 【 炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤 】 バリトゲン。HD バリトケン。ソル バリトケン®

バリトゲン゚デラックス ウムブラMD

X線診断二重造影用発泡剤

バリエーズ。発泡顆粒

■ 胃内有泡性粘液除去剤

バリトゲン 消泡内用液 2%

ファースルー錠2.5mg (ピコスルファートナトリウム錠)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

●資料請求先 / 学術室

〒763-8605 香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

仙台営業所/TEL 022-295-5667 東京営業所/TEL 03-5328-7801 名古屋営業所/TEL 052-732-8555 大阪営業所/TEL 06-6160-2431 中四国営業所/TEL 0877-22-7284 福岡営業所/TEL 092-413-4107